

令和元年度

学校自己評価表(報告)

学校運営計画					
学校運営方針		教養を高め、個性を伸ばし、勤労と責任を重んじる豊かな人間性を育成する。			
昨年度の成果と課題		元年度の重点目標	具体的目標		
昨年度は、重点目標の第1に掲げた授業改善について、年間2期にわたって授業公開週間を設定するとともに、「学びを深める授業づくりワーキング・グループ」のメンバーを中心に、生徒の主体性を喚起する授業展開の検討を行った。 また、県教育委員会の「いじめ対策総点検」を機に、校内のいじめ防止対策の充実を図り、「学校いじめ防止基本方針」の改訂を行った。さらに、今年度開催の産業教育フェア新潟大会に向けて、1学年及び総合ビジネス系列の2、3年生が地元産業の催し物に参加するなど、地域理解学習を進めた。今後も、地域との連携を強化しながら、「郷土を愛する心」の育成に取り組む。 進学型総合学科高校として、学力向上に向けた組織的な取組をより一層充実させるとともに、生徒の進路希望の実現に全力をあげる。		1 授業改善の推進	・主体性、積極性を喚起し自己肯定感を育てる授業づくり(授業公開、校内研修の実施、生徒の「授業評価」による改善点の確認)		
		2 キャリア教育の一層の推進	・「きらきらいずみプログラム」の検証と探究学習の推進 ・地域との連携の一層の推進(地域への発信に挑戦) ・進路実現に資する系列と科目の選択		
		3 安全・安心な教育環境の保持	・各学年における「生徒実践目標」達成に向けた指導 ・生徒支援委員会の主導による生徒情報の共有と、組織的な対応 ・教育活動全般における、人間関係構築の支援や社会性の育成 ・「学校いじめ防止基本方針」の活用		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価	
【学力向上】	教務:学習体制の立案	授業時数を管理し、授業の充実を図る。		A	
		授業の開始時間を厳守し、時程の運用を円滑に行う。		A	
	進路意識を啓発し、生徒が主体的に学び、考える学習姿勢を育成し、学力向上を図る。大学進学に向けた組織的な教科指導体制を構築する。	1学年:学習指導 学習スタイルと家庭学習の習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。	授業をとおして、高校生としての学習スタイルを身に付けさせる。		B
			予習・復習・課題の充実を図り、家庭学習の習慣を確立させる。 キャリア発達の基盤として、学び続ける態度を育成する。		B
		2学年:学習指導 授業への主体的参加を促すとともに、計画的な家庭学習習慣の確立を図る。	学習することの意義や効果を意識させ、授業に積極的に参加する態度を身に付けさせる。 家庭学習習慣を確立させて、より確かな学力の定着を図る。		B
			スタディサポートや各種模擬試験の実施をとおして、取り組むべき課題を考えさせ、行動させる。		B
		3学年:学習指導 進路目標に向けての授業の積極的活用と家庭学習の充実を図る。	個々の選択科目授業を、科目間の関連を意識させて受講させる。 学習計画を立てさせ、時間の有効活用を図り、家庭学習の質・量の向上を目指す。		B
			各種模擬試験や補習授業の実施を通じて、進路実現に向けての学力向上を目指す。		A
	【生活規律】	生徒指導:基本的生活習慣の育成・定着	連絡・届け出を徹底し、無断での欠席・遅刻・早退をさせない。		A
			明朗快活な挨拶を徹底させる。		B
五泉高校生としての品格を保つ服装・頭髪の指導を徹底する。 社会モラルを認識させ、より向上させる。			B		
交通安全の徹底を図る。(自転車・バイクの安全点検、実技指導) 命の尊さを理解させるとともに、思いやりのある行動をさせる。また、他の分掌と連携していじめ対策に取り組む。 事故・事件防止のための危機管理能力向上に向け、指導を徹底する。			A		
生徒指導:保護者・地域との連携		地域の関係諸機関との連携を強化する。 保護者・地域の方々との意見交換をとおして、理解・協力体制を構築する。		A	
		B		B	
1学年:生活指導 基本的生活習慣の確立を図る。		遅刻・早退・欠席・欠課を無くすよう指導する。 教育活動にふさわしい服装・頭髪、挨拶や作法など基本的なマナーを習得させる。 教室や体育館等の校内施設の美化に努めさせる。		A	
		B		A	
		2学年:生活指導 自分で考えて行動できる自主自立の精神を育む。	欠席・遅刻・早退・欠課をしないように指導する。 高校生にふさわしい礼儀・挨拶・身だしなみ(頭髪・服装)や生活習慣を身に付け、けじめのある高校生活を送れるよう指導する。 自分のことに責任をもった行動がとれるように指導するとともにいじめ防止に連携して取り組む。		A
			B		B
	3学年:生活指導 けじめのある生活態度と他者を思いやる態度を育成する。	遅刻・早退・欠席・欠課をしないように、基本的生活習慣の維持と心身の健康管理をさせる。 生徒指導部と連携し、最上級学年として、社会人になるにふさわしい礼儀・挨拶・身だしなみ(服装・頭髪)を指導する。 他者の立場に配慮した言動を行える人間性を育てるとともにいじめを許さない姿勢を育てる。		A	
		B		A	
【キャリア教育】	キャリアガイダンス:生き方やあり方を考えさせ、主体的に進路を選択する意欲と判断力を養う。	1、2年生対象意識啓発行事(「大学講義体験」「上級学校見学・企業見学」等)を実施し、生徒の進路意識を啓発する。 ワークショップを開催することで国際理解に係る意識を啓発するとともに、自発的に国際問題に関心を持つ姿勢を育成する。 学習習慣形成支援により学びの基本となる姿勢づくりを促す。		A	
		B		A	
		B		A	
	キャリアガイダンス:生徒が自ら情報を収集し、活用する能力を身につけさせる。	キャリア資料室をより活用しやすく整備する。 資料室の活用法とともに、的確な情報収集の方法を指導する。 1年生は「産業社会と人間」の準教科書を、2・3年生は「進路の手引き」を有効活用できるよう工夫する。		B	
		B		B	
		B		B	
	キャリアガイダンス:生徒一人一人に対して、学年とキャリアガイダンス部が連携してきめ細かな進路指導を行う。	キャリア資料室での生徒相談に積極的に対応する。 3年生の個別指導(小論文・面接)を積極的に実施し、生徒の進路実現に繋がるよう支援する。 各学年単位で、生徒の志望動向に応じた進路説明会を3年生は年3回、2年生は年2回行う。また、1・2年生では進路講演会を年1回実施する。		A	
		A		A	
A		A			

		学年との連携を図るために、担任のキャリア部員および学年主任とよく打ち合わせる。	B	B
		担任のキャリア部員や学年主任を通じて、クラス担任や生徒への有効な進路資料の提供を行う。	B	
		進路実現にとって、基本的な生活習慣を確立させることが重要であるということ、日常の指導、新入生オリエンテーション、進路説明会などを通して語りかけていく。	A	
		生活調査を行い、生徒の生活実態を把握し、指導に生かしていく。	B	
	1学年:進路指導 自己及び社会に対する理解を深めさせ、適切な目標設定をさせる。	「きらきらいずみプログラム」とおとして、自己や社会に対する理解を深めさせることで、進路意識の向上を図る。	B	B
		進路希望を早期に明確化させ、実現のために適切な系列選択ができるよう、生徒・保護者への情報提供、進路相談の充実を図る。	B	
	2学年:進路指導 進路目標を明確化し、実現に向けて具体的に組み立てる。	進路説明会や講演会をおとして、具体的な進路目標を主体的に設定させる。	A	A
		3年次の科目選択が適切にできるよう、進路研究の機会、生徒・保護者への情報提供、進路相談の充実をめぐる。	A	
		各種取組をおとして主体的に考え、行動する姿勢を身に付けさせ、たくましい人間性を育む。	B	
	3学年:進路指導 進路実現に向けた準備、対策を計画的に実施し、進路目標の達成を目指す。	キャリアガイダンス部と連携し、時期にあった適切な進路対策を進められるよう指導する。	A	A
		生徒・保護者への進路情報の提供、進路相談の充実を図る。	A	
		学期の成績や模試の結果をもとに、自らを見直し向上させていく力を育む。	B	
【情報公開・ 学校評価】	教務:開かれた学校づくり	中学校教員・保護者向けの公開授業や、学校説明会等を計画・実施する。	A	A
		ホームページの運用を積極的に行い、本校の情報発信を円滑に行う。	A	
地域から評価される学校となるよう、情報公開や地域貢献活動を積極的に進め、内外に開かれた学校づくりを行う。	教務:校内LANの管理・運用支援	校内LAN環境の安全管理・整備を支援し、情報・成績・出欠の管理を推進する。	A	A
	キャリアガイダンス: 保護者に進路情報が確実に伝わる手段を工夫し、保護者との緊密な連携のもとで、生徒の適正な進路実現を図る。	学校のホームページに載せる進路資料を積極的に提供する。	B	B
		キャリア通信(たより)を通じて、保護者への進路情報の提供を積極的に行う。	B	
		保護者懇談の際、3年間を見通した指導計画に基づく進路資料を作成できるよう、各学年を支援する。	B	
		保護者対象の進路講演会を開催するなどして、保護者にも進路を取り巻く環境について情報提供をする。	A	
	渉外:広報活動を充実させ、保護者の学校への関心をより高める。	PTA総会の実施により、本校の教育活動を周知するとともに、PTA活動の重要性を啓発する。	B	A
		PTA会誌の年2回発行をおとして、校内外におけるPTA活動の実情を広報する。	A	
		文化祭への参加、大学訪問研修・進路説明会の実施等をおとして保護者間の連帯を深め、また進学に対する意識を高める。	A	
	渉外:地域および同窓会との緊密な連携を図る。	年1回の同窓会総会の実施により、旧交を温めつつ、本校の教育内容と本校教育活動における資金援助の役割等を知ってもらう機会とする。	B	B
		来年度の創立100周年に向けて、実行委員会を通じて同窓会との連携を密にし、準備を進めていく。	A	
	教育環境: 図書館利用の推進と支援	図書委員会活動を活性化させる。	B	A
		図書館学習の支援、レポート作成等の支援を行う。	A	
	図書館オリエンテーションを実施する。	A		
	「新着情報」(年5回)を発行する。	B		
	「図書館だより」(年3回)を発行する。	B		
	図書館報「いずみ」(年2回)を発行する。	A		
	図書リクエスト制度を実施する。	A		
教育環境: 生徒の心身の健康管理 校内連携の強化	生徒要治療者への早期治療を徹底する。	B	B	
	インフルエンザ等の感染症蔓延防止のため、適宜情報提供を行い、注意喚起をする。	B		
	「保健だより」を定期的に発行する。	A		
	保健室利用状況などについて、職員間で情報を共有する。	A		
教育環境: 校内環境美化の推進	清掃活動に支障がないように清掃用具を補充・交換・配備する。	A	B	
	毎日の清掃の重要性を啓発するとともに、大清掃の重点項目を設定し、校内美化に努める。	C		
生徒会指導:生徒の諸活動の活性化を図る。	体育祭やいずみ祭などの各種生徒会行事の充実を図り、生徒会活動の活性化を目指す。	B	B	
	年度初めの部活動紹介や各種大会前の壮行会などを通じて、部・同好会活動の活性化を図る。	B		
全学年:生徒、保護者への十分な情報提供	「学年便り」を随時発行し、学校や進路についての情報を提供する。	A	A	
	保護者面談や家庭との連絡をおとして、情報提供と情報交換を十分に行う。	A		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善について、年間2期にわたって授業公開週間を設定するとともに、生徒の主体性を喚起する授業展開の検討を行った。 県教育委員会の「いじめ対策総点検」を機に、校内研修の充実を図ったことで、いじめの定義の理解や組織的な対応についての共通理解を図ることができた。いじめ対策について、校内の組織的な対応につながった。 産業教育フェア新潟大会に向け、企画や周到な準備を行った。その結果、総合部会催事について高い評価を受けた。 1学年の「産業社会と人間」におけるふるさと理解学習及び総合ビジネス系列の2、3年生が地元産業の催し物に参加するなど、地域理解学習を進めた。今後も、地域との連携を強化しながら、「郷土を愛する心」の育成に取り組んでいきたい。 		総合表評価	
			A	